



2026年度（令和8年度）事業計画

社会福祉法人 善興会

2026年4月スタート

2026年度

私たちの重点目標を紹介します
「地域とともに、いつまでも」

ぜん こう かい
社会福祉法人 善興会

みんなの想いをつなぎ、未来へつなぐ善興会であり続けます

1 「ヒュッゲ」を目指して
～居心地のいい空間づくり～

ひとりひとりが安心して過ごせる
心がほっとする居場所をつくります

ここに
来てよかった
そう感じる
場所に

2 あいさつが基本
～コミュニケーションを円滑に～

笑顔が広がる職場をつくります

おはよう
ございます!

いつもの
一言が
大きなつなぎに
なります

3 DXの促進
～ICTやAIのアシストで
本来の介護に専念～

デジタル技術を活用し
業務を効率化
その分、利用者様との
時間を大切にします

ICTで
つながる、
安心が
広がる。

Hey Wiz
(ハウィズ)
3階、〇〇室
様さんが面会に
いらっしゃいました
対応します

4 人口減少や単身世帯の増加を
見据えた見直し
～ベッド数や受け入れ体制など適正に～

これからの地域の変化を見据え
持続可能で質の高いサービスを
提供できる体制を整えます

今と未来、
どちらも
見つめて
考えます

地域とともに歩む善興会
2026年度も、心をひとつに
より良い未来をつかって
いきましょう!

安心と笑顔が
私たちの願いです

～地域で生きる、
地域を創る～

重点目標を
AXで分かりやすく
表示しています



ケアする人も、受ける人も。 「笑って暮らしていく」ために。

法人開設約60年の歴史の中で初めて実施した
「ハラスメント大調査」。そこで見えた課題は、福祉
の基本であるはずの「あいさつ」でした。

かつてない感染症拡大（新型コロナウイルス）による
マスク着用、面会制限、イベント中止。大きな声で
笑い合い、食事を共にすることが奪われた日々。

2026年の誓い：暗いトンネルを抜け、私たちは本来の
姿を取り戻します。思いやりある居心地のいい居場所
づくりを柱に、再び施設に「笑い声」を響かせます。

時代背景と我々の挑戦： 迫り来る「超超」高齢社会

北九州市の高齢化率 31.2%
(政令指定都市で最も深刻。3人に1人が65歳以上)。宮崎・日南市も高齢化率 40%超。

現在

北九州市の要介護認定者が7万人超となりピークへ。

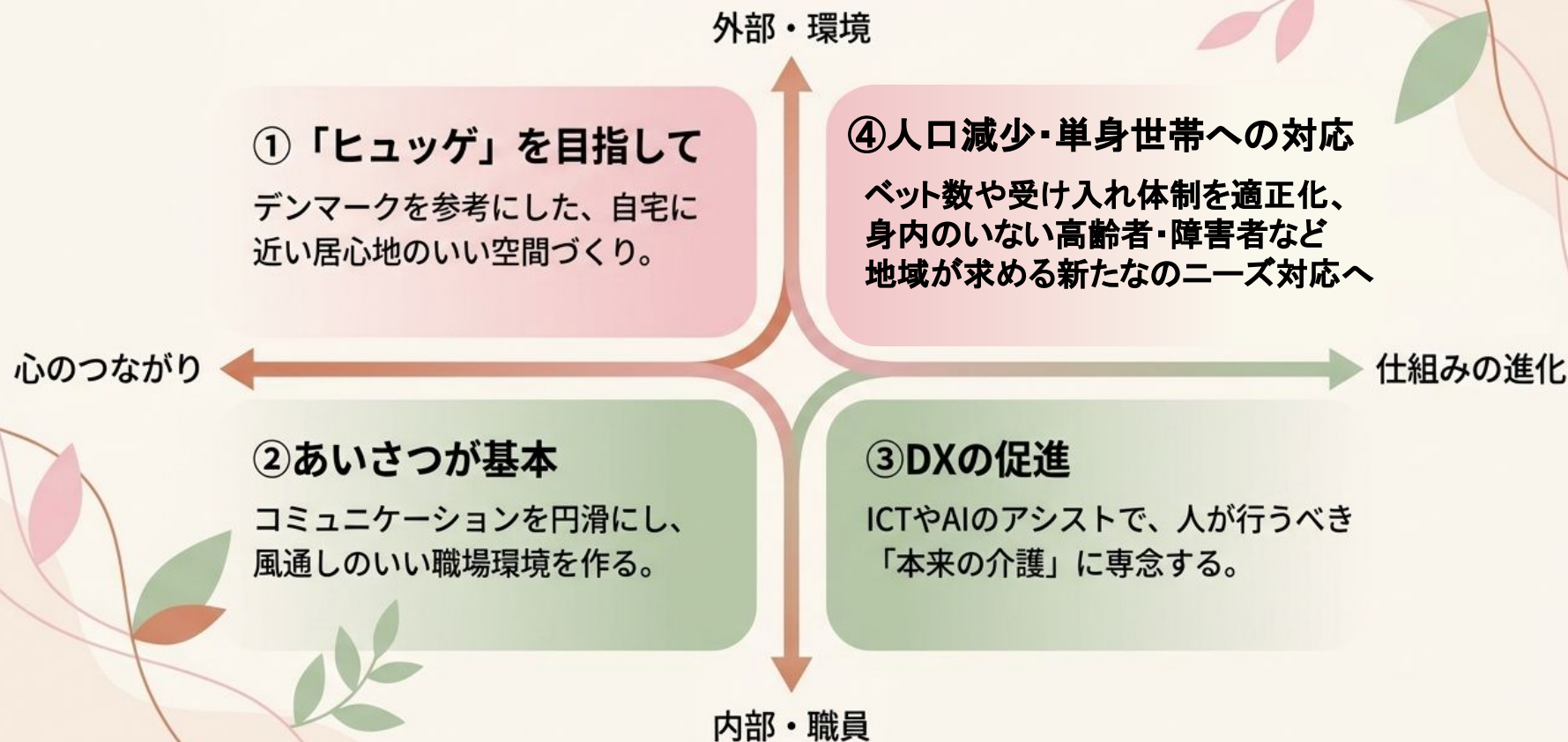
2035年

介護職が約4,000人不足する深刻な見通し。

2040年

人材不足、物価高騰が続く中、単身世帯や認知症の増加に対応するためには、従来のやり方を見直し、「適正な規模」と「テクノロジーの力」が不可欠です。

2026年度 4つの重点目標：温もりのための構造改革



高齢福祉・入所施設（北九州）：空間とケアの質を高める

花の王善興園 / 第三善興園



ヒュッゲな環境構築

- ゲストが安心して過ごせる「ヒュッゲ」な生活環境の構築。
- コロナ禍で制限されていた行事・交流・面会を再考し、「生きる楽しさ」を感じられる環境へ。
- 単身高齢者の増加を見据え、身元保証人の確保を進め、受け入れ体制を整備。

ケアの質と健康管理

- 不適切なケアを「徹底してゼロ」にするための事例共有と景観美化。
- 誤嚥性肺炎の予防：食事姿勢、形態、介助方法の基準化。食前・食後の口腔ケアの徹底。
- 認知症ケア：ベテラン職員を中心とした専門的ケアの実践。

高齢福祉・入所施設（DX）：テクノロジーで「本来の介護」を取り戻す

介護員の日々のシフト

Before
(アナログ)

記録・事務作業

直接ケア・
対話



After
(スマート施設)

直接ケア・ヒューグの時間

音声入力で介護記録 「ハナスト」

花の王に続き、第三善興園でも導入検討。介護記録システムケアカルテを積極活用する

オンラインで動画研修

ジョブメドレーアカデミーを活用し4月から研修を充実化
施設内のiPad貸し出し、プロとしてのスキルUPをスキマ時間で行う

生産性向上委員会の稼働

DX推進チームがロボット活用の効果をデータ分析（記録時間、夜間巡視、申し送り時間の削減）。

高齢福祉・通所施設：能動的なプログラムと安心の場づくり

善興園デイサービスセンター



能動的プログラムへの転換

個性を活かした活動へシフトし、達成感を味わうことで心身の活性化と認知症の進行を防ぐ（受動的から能動的へ）。

花の王 上層階移転への準備

次年度は、見晴らしのいい快適な場所でのケアに移行する計画。笑い声がさらに響くデイサービスへシニアの社会的孤独の不安解消と家族の介護負担軽減を図り、通うのが楽しい居場所をつくる。

ハラスメント対策の徹底

利用者からの優越的言動や性的発言、また職員からの不適言動の監視強化。悪質な場合は契約解除の措置を講じ、双方が安心できる環境を守る。

居宅介護支援：新生ホームサポート「ごく・らく」



+

新
メンバー

4ベテランケアマネジャー

ブランドと体制

- **リブランディング**：カタカナから、より親しみやすいひらがな「ごく・らく」へ名称変更とロゴ一新。「家を背負って前に」突き進むサポート。
- **福祉のプロフェッショナル集団**：センター長以下、全員が福祉経験20年以上。経験10年以上のケアマネジャー3人が在籍。

デジタルと目標

- **デジタルシフト**：ケアカルテ・ケアコネの徹底活用。ペーパーレス化による業務効率化。
- **目標数値**：担当件数「月平均180件（1人45件）」の維持。新規紹介数「月平均3件」。特定事業所加算の上位区分取得。

障がい者支援（北郷荘）： スマート施設化と逆転の収益改善



定員適正化:
70人→60人

支援の手厚さ向上

早期の満床稼働（新規7人受け入れ）

新たな加算の取得

- ・ 人員配置体制加算(Ⅱ) → 年間 + 約3,310万円
- ・ 夜勤職員配置体制加算 → 年間 + 約1,050万円

収益増と
ケアの質向上

完全デジタルシフト（4月1日～）：障がい分野・県内トップのスマート施設へ。
ケアカルテ&ハナストへ完全移行し、アナログ記録を撤廃。「人間らしい」ケアへの集中。

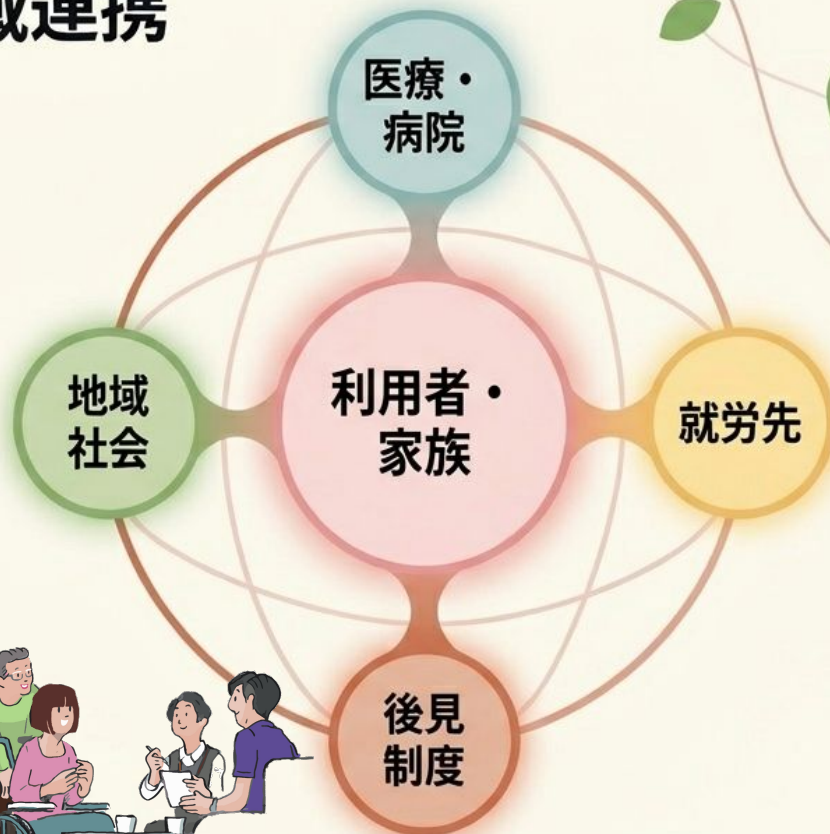
障がい者支援（杉の湯荘・北郷の里）：高齡化と重度化を支える地域連携

グループホーム 杉の湯荘

- 家族の高齡化対応：任意後見制度・法定後見制度の活用推進。
- 環境整備：高齡・障害の重度化に対応するための館内設備（手摺・浴室等）の改修。体験利用の支援。

相談サポートセンター 北郷の里

- 相談支援専門員の増員と人材育成。機能強化加算Ⅰの取得。
- ケアカルテ導入によるマネジメント業務の一元管理。
- 日南市自立支援協議会や行政と連携し、制度の狭間に陥った困難事例へのチーム支援。



人材確保・育成： 多様な力で支える組織へ

第三者機関と連携し EAP
(従業員支援プログラム) 継続。
新入職員には入職1~2カ月を
目処に全員の面接を実施し
安心して働ける職場づくりを推
進。

メンタル
ヘルス支援

多様な
人材確保

スキルアップ
・標準化

インドネシア特定技能介護人
材「サウダラ」2期生の受け入
れ(花の王2人 第三2人 北郷2人)
現地訪問を通じた採用と
日本語や文化の習得支援。

eラーニング導入：
「ジョブメドレー」を活用し、法定研
修や新人研修を標準化。
多言語対応で外国人材もサポート。
介護福祉士等の資格取得支援。

安全管理と地域連携：強靱で優しい施設づくり

内部の安全（職員と利用者を守る）

- 感染症対策：ノロ・新型コロナ等の発生を想定した初動対応訓練。手洗い・手指消毒の徹底。
- ノーリフトケア：補助金を活用し、職員の身体負担軽減と利用者の安全を両立するケアの導入検討。
- BCP（業務継続計画）：災害・感染症発生時もサービスを継続するための実効性ある訓練。

外部の保護（地域を守る）

- 緊急避難場所の提供：地域協定に基づき、周辺自治区会と連携。自然災害（台風・降雪）時に施設を地域の避難体制として開放。

全体総括：2026年度 施設別アクションマトリクス

	DX・ICT化	収益・適正化	重点ケア・サービス
花の王・第三善興園	第三ではハナスト ノーリフト導入へ	空床の迅速な 地域提供	不適切ケアゼロ・ 単身者対応
善興園デイ	ケアコネ活用へ	新規利用者の獲得	能動的プログラム・ ハラスメント対策
ごく・らく	ケアコネ、ケアプー 積極活用	180件維持・ 特定加算上位	ペーパーレス化 相談対応強化
北郷荘	ケアカルテ・ハナスト ケアコネ 積極活用	定員60人へ・ 加算約4,360万増	スマートケア 個別のケア力強化
杉の湯荘・ 北郷の里	ケアカルテ導入 検討	機能強化加算Ⅰ	高齢化対応・ 後見制度活用

ケアする人も受ける人も、みんなの笑顔のために。手を取り合って前進していきましょう。